

# Emergency Watch

## NO. 41



### 神戸こども初期急病センター



2014年4月受診者数：1995人

訴え

- 1. 発熱 : 1222人 ( 959人)
- 2. 咳 : 930人 ( 208人)
- 3. 鼻汁 : 762人 ( 19人)
- 4. 嘔吐 : 423人 ( 215人)
- 5. 頭痛 : 257人 ( 44人)

(カッコ内は、その症状を主な訴えとして来院した患者数)

疾患頻度

- 1. 急性上気道炎・咽頭炎 : 700人
- 2. 感染性胃腸炎 : 343人
- 3. 気管支喘息・喘息性気管支炎 : 174人
- 4. インフルエンザ : 124人
- 5. クループ : 98人

### ☆☆今月のワンポイント☆☆

神戸では今月に入り日中は暖かく過ごしやすい日々となってきました。4月の受診患者さんの数は3月に比べ1049人ほど減少し1995人でした。インフルエンザも検出されたのは74例でこのうちA型は14人、B型は60人と先月に比して大きく減少傾向です。その影響で疾患別頻度は2位以下ががらりと変わり感染性胃腸炎やクループ症候群が順位を上げています。気温や天候が変わりやすかったですが今のところ喘息患者数は著明な上昇とはなっていません。

気候が良くなり外で活動する機会が増えるため今回はこどものけがや事故・応急処置について書いてみたいと思います。外で多いこどもの事故の原因は圧倒的に交通事故です。「車の運転では運転者が交通ルールを守る」、「チャイルドシートを使用する」、「ボールなどを追いかけて急な飛び出しをしないようにする」といった基本的なことはもちろん守らなければなりません。またそれだけでなく「発進・停車時の周囲の確認」、「自動窓の安全な開閉」などにも気を配る必要があります。車の事故以外にも特に幼少児は溺水や火災、転倒転落なども養育者がしっかり目を光らせておく必要があると思います。事故はあらゆる状況でも起こりえます。ここですべてに触れることはできませんので、国民生活センターのホームページ ([http://www.kokusen.go.jp/soudan\\_now/data/kodomo\\_jiko.html](http://www.kokusen.go.jp/soudan_now/data/kodomo_jiko.html)) などを利用して予防のために普段から勉強しておくことも大切です。

家庭でできる応急処置は様々なものがありますが、今回は「擦り傷・切り傷」、「頭部外傷」と「骨折・捻挫」、「熱傷」の応急処置について簡単に述べます。擦り傷・切り傷ができたなら傷口はきれいな水で洗い流した後に消毒をします。血が出てくるような場合は清潔なガーゼやタオルで圧迫します。包帯をきつめにまくのも圧迫止血になります。そのような処置をしても血が全く止まらない場合は病院受診をするようにしてください。頭部外傷は傷の部分



部分は通常の擦り傷・切り傷の場合と同じです。頭を打った後意識が悪い・けいれん・頻回の嘔吐・麻痺、言語障害、ひどい頭痛があるときは早目の病院受診をしましょう。明らかな捻挫の場合は患部を冷やし固定をしますが骨折の場合は原則整形外科の受診をします。骨が外から見えたり、痛みが強い場合は病院を受診してください。熱傷はやけどの部位をまんべんなく冷やします。水疱ができた場合は原則としてつぶさないようにしてください。もし破れてしまった場合は擦り傷と同じ対応をしてください。